

# 第108号

2024年  
【令和6年】  
2月17日発行

【発行部数】  
2,550部

# 磯島だより

掲載の内容は、特記以外1月20日現在の情報を基に作成しております。

## The Isoshima NEWS

人口統計 2024年1月1日現在。増減は2023年10月1日と比較。

【発行元】磯島校区コミュニティ協議会 広報部会

	人 口	世 帯 数	0~14歳	15~64歳	65歳以上
枚方市全体	394,221 (669減)	185,778 (117減)	46,651 (256減)	233,363 (553減)	114,207 (140増)
磯島校区	7,531 (22減)	3,873 (7増)	923 (33減)	4,808 (2減)	1,800 (13増)



渚西中学校会場に参加した磯島校区20歳の皆さんと、会場に参列してくれた小学生。横断幕は、20歳の半分の年にあたる、磯島小学校4年生からの贈り物。

「ありがとう」「人との繋がり」「挑戦する心」を大切に  
第75回はたちのつどい

一月八日(月)渚西中学校で「はたちのつどい」が開催されました。

コロナ後初めての開催となった今回は、地域住民等の入場も可能となり、磯島・西牧野地区在住の二十歳の方五十七名をはじめ、当時渚西中学校三年で担任された先生方も参加。会場では、久々に出会った者同士で会話が弾んでいました。

式典では、二十歳代表者が「『ありがとう』という言葉・人との繋がり・失敗を恐れずに果敢に挑戦すること、この三つを大切にして、芯のある素敵な大人になりたい」と二十歳の思いを述べました。

【二面に『二十歳の抱負』掲載】(古川)

写真④ 中学時代に書き残した「20歳の自分へ」の手紙。当時担任だった先生から手渡しされた。  
写真⑤ 地域の方々からのお祝いメッセージ。式場内に花を添えた。



### 主な掲載記事

- 「ハロウィンイベント」フォレスト自治会 3面
- 枚方なぎさ高校研究発表 4面
- 地域の皆さんと歩きました! 6面



# 二十歳の抱負

「はたちのつどい」を迎え、めでたく20歳を迎えられた人たちを代表して、思いや意気込みを書いてもらいました。



## 一人前になりたい

嶋田 剣吾

この度、二十歳になりました、嶋田剣吾です。

磯島の恵みを受けてここまで成長できたことを嬉しく思っています。地域の皆様、今までほんとうにありがとうございました。

いろいろあつて今は宮崎で医学を学んでいます。まだまだ学生ですが、二十歳になったということ



## 親の偉大さ

塩入 春翔

この度、心配でしたが無事に二十歳になることができました。

二十歳になって、今までの出会いに感謝しないといけないということを感じました。今の自分があるのは、自分の努力だけではありません。過去に関わってきてくれた人たちのおかげで、今の自分があると思います。

私は今の自分が大好きです。これからもっと自分を好きでいたいので、もっといろんな人と関わって、自分を成長させていければと思います。そう思えるのも、ここ

で、大人の自覚を持って行動していこうと思います。今でも磯島に帰省してくると、安心感があります。将来どの地域で勤務するのか、まだわかりませんが、いつかまた磯島に戻って、地域に恩返しができるといいなと思っています。そのため精進して参ります。将来の活躍をお楽しみに！

まで叱る時は叱り、褒める時は褒め、はっちゃける時は一緒にはっちゃけてくれた家族の存在がありがたからだと感じました。このように、親という存在はとても大きいです。そして二十歳になった私ももう立派な大人。親のように安心感や存在感はまだ与えられませんが、他人の人生の中の一ページに載れるくらい影響力のある人になりたいと思います。



## 与える側へ

西川 薫

この度、無事に二十歳を迎えることができました。これまで二十

年間自分を支えてくれた多くの方々へ感謝の気持ちを伝えたいと共に、未来への期待と責任感が胸に広がります。また、年明けに能登半島の地震での被災は辛い出来事でしたが、これをきっかけに地域社会に対する思いが一層強くなりました。

これからは、学業と共に、地域への貢献や支援にも力を注ぎ、共

に成長していくことを目標にします。そして、与えてもらうだけでなく、与える側としても成長していきたいです。人との繋がりや経験を通して、自らの経験や知識を分かち合い、助け合い、共に成長することが大切だと感じます。私たちの未来に向けて、前向きに努力し、夢を追い求める二十代を積極的に生きていきたいと考えています。

この度、無事に二十歳を迎えることができました。この日を無事に迎えることができたのは、家族をはじめ友人や地域の方々、これまで支えてくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。二十歳と聞くと、とても大人だと感じていましたが、実際はまだまだ未熟で周囲の方々に助けられて日々過ごしています。私は今、助産師を目指して大学



## 支えられながら、夢に向かって

西井 寧々

この度、無事に二十歳を迎える

ことができました。この日を無事に迎えることができたのは、家族をはじめ友人や地域の方々、これまで支えてくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。二十歳と聞くと、とても大人だと感じていましたが、実際はまだまだ未熟で周囲の方々に助けられて日々過ごしています。私は今、助産師を目指して大学

で勉強をしています。簡単なことではありませんが、実習などでの様々な出会いや経験を通して、多くの方の気持ちに寄り添うことのできる看護職者になりたいと思っています。このように夢を追い続けられるのも、両親をはじめ皆様の支えがあつてのことです。そのことを忘れず、大人の一員として過ごしていきたいと思っています。

私は今、助産師を目指して大学





# 住民同士が楽しく交流!

ハロウィーンイベント開催 フォレスト自治会

十月二十八日(土)フォレスト自治会の「コミュニティルーム」で、「ハロウィーンイベント」を開催しました。

コロナ禍前は、春に「お花見会」、秋に「お月見会」を開催しておりましたが、しばらく開催を見送っておりました。今年は新型コロナの五類移行を踏まえ、春のお花見会から住民の交流の場となる催しを徐々に復

活させております。

自治会・子ども会の役員やサポーターが協力し、お団子を配ったり、焼き鳥、ソーセージ、おにぎり、飲み物を提供して、住民同士が楽しく交流!おおいに盛り上がりました。

フォレスト自治会では、これからも住民同士の交流を深める取り組みに努めてまいります!! (稲垣)



◆秋の風物詩「ひらかた菊フェスティバル」開催  
十月二十五日から十一月十三日にかけて、『ひらかた菊フェスティバル2023』が開催され、枚方市駅周辺の街をたくさん菊が彩りました。  
『ひらかた菊花展』では、学校の部で磯島小学校の菊が「大阪府教育委員会賞」を受賞しました。(古川)



◆枚方市駅再開発工事も終盤へ、東口もリニューアル  
令和二年十二月から行われている枚方市駅再開発工事が佳境を迎えています。駅北側には住宅兼商業ビルとロータリーが拡張整備されるほか、駅東側には今年夏に職・住・遊が融合したビル「ステーションヒル枚方」が開業予定で、直結する駅東口も改修工事が行われています。  
また、淀屋橋方面行きホームにはホームドアを設置。二月末頃から稼働予定で、ホームの安全性が強化されます。(古川)



北側に拡張される駅北側バスロータリー。後ろは今年度完成予定の住宅兼商業ビル。さらに後ろには今年夏開業予定の「ステーションヒル枚方」。



ホームドアが設置された3番線ホーム



再開発工事に合わせ、東改札口付近では3月末までリフォーム工事を実施。

◆「天の川クリーン&ウォーク」開催  
地域住民や企業・行政などが集まり、天野川を清掃する活動が行われています。  
コロナ禍の中止を経て、十月二十八日(土)に四年ぶりに開催され、磯島校区からは枚方なぎさ高校の職員六名、渚西中学校の校長先生を含め、約五十名が参加しました。(前川)



◆小学校前の空き地の木を伐採しました  
磯島小学校前から教育文化センターに向かう通学路横の空き地に生える木を松永会長が伐採しました。  
以前は草木が生い茂り手入れされていなかったことがありましたが、現在は土地の所有者と合意の上、地域で手入れを行っています。  
見通しを確保することで、通学路の安全確保に繋がりたいと考えています。(古川)











### お食事提供までの流れ



「磯島だより」への記事作成の取材のため、初めて子ども食堂のボランティアに参加しました。そのおかげで、食事をきちんと摂れない子どもがいるという現実を改めて実感し、また、フードバンクに寄付することを初めて意識するようになりました。このような貴重で素晴らしい経験をできるきっかけを与えてくださってありがとうございます。

## 子ども食堂にボランティア参加して

木村 実怜

前の子どもたちが喜んでくれたことに幸せを感じました。今の私に出来るのは、フードバンク等への寄付など、少しでも協力できることを見つけて行動することだと思います。この度は貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



「磯島だより」への記事作成をきっかけに、子ども食堂という存在を初めて知り、食堂でのボランティアまで体験する機会に恵まれたことにも感謝しています。この体験を通して、今の社会には十分な食事を摂れていない子どもがいるということに身近な問題として認識しました。食事を提供して、目的

## 体験できたことへの感謝

溝口 あかり

子ども食堂にボランティアとして参加して、色々な話を聞くことができて良かったです。子ども食堂を作ることになった経緯やどんな子が食べに来ているのかとかを知り、すごく素敵な活動だなと感じました。仕事などで家に両親がいない時間が長く一人で過ごすことがほとんどだとか、課題を抱えた子どもたちはたくさんおり、自分たちももっと考えなければいけないと思いました。そして、自分たちとあまり年齢も変わらない人たちがボランティアに参加しているのを見てもすごいなと思いました。頭では考えていても、行動に移せる人はなかなかいないと思い、とても感じました。

## 安心できる場所

赤尾 玲那

温かい居場所がなく一人で過ごしがちな小さい子どもたちにとって、子ども食堂の存在は心強く、安心できる場所でした。



### 「子ども食堂」とは

全国的には明確な定義が定まっていないようですが、農林水産省HPによると「家庭における共食が難しい子どもたちに対し、共食の機会を提供する取組」を「子ども食堂」としています。子どもやその保護者だけでなく、地域の高齢者なども参加して、地域コミュニティの中でこの居場所を提供しているところも。枚方市では「家で一人で食事をとる、夜遅くまで一人で過ごすといった環境にある子どもたちを対象に、食事や学習支援、回らんの場の提供を行い、子どもたちを見守る活動」をいわゆる「子ども食堂」としており、サポートを行っています。



↑市ホームページをご覧ください



# 地域の皆さんと歩きました！

## 「歩こう会」開催 福祉部会

十一月十九日(日) 秋晴れのもと『歩こう会』を開催いたしました。

百八十名程の参加者の中、関西医科大学の学生五人もボランティアとして参加していただきました。

磯島小学校から淀川河川公園まで歩くのですが、予定していたコースの一部が工事で通行止めとなったため、急遽コースを変更しましたが、混乱もなく無

事に歩ききる事ができました。

参加者全員が到着してから、恒例のゲームで盛り上がり、最後にお弁当をお配りして終了となりました。

参加された方からは、「楽しかった」「また来年も参加します」といったお言葉を沢山いただきました。地域の皆さんと楽しく交流できたことを福祉委員一同、大変喜んでおります。ありがとうございます。(福祉部会長 中村)



# 魔法の板がタワーや駅に

## カプラで遊ぼう 福祉部会



十二月二十二日(金) 毎年恒例二学期終業式後の「カプラで遊ぼう」が行われました。

カプラはフランス生まれで、日本語では「魔法の板」というそうです。子どもの感性を豊かに育み、無限の可能性を引き出すカプラ。児童約百名、スタッフの福祉委員十二名で、二万ピースのカプラを使い、高く積み上げタワーが完成。その後、家や駅を作り、立派な街ができました。クリスマスが近いこともあり、児童はサンタクロースからクリスマスプレゼントをもらっていました。(橋野)

# 校区福祉委員会の行事予定

- ◆カンガルークラブ(子育てサロン) ※参加費100円/組
  - ・2月27日(火)10時～ @渚西臨時保育室(旧 渚西保育所)
- ◆いきいきサロン
  - ・3月頃(詳細未定・事前に掲示板等に掲出予定)
- ◆ぷらっと
  - 毎月第2水曜日13時30分～ @渚西集会所
  - 第2金曜日13時30分～ @西禁野会館
- ◆カーリンコン・スカットボール
  - 毎月第4水曜日13時30分～ @渚西集会所

※ 諸事情により予定が変更になる場合があります。  
※ この他にも、回覧や掲示板等で行事をお知らせさせていただきます。  
詳しくは、福祉委員にご確認ください。

# 編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年は、コロナですと中止だった夏祭りに体育祭と久しぶりに行事が復活し、住民同士の触れ合いが増え、沢山の笑顔、笑い声があった気がします。今年もそんな素敵な時間が増える一年に出来たら嬉しいな、と思います。  
年明けすぐに地震があり、とても怖く大変な思いをしてる地域もありますが、一日も早く笑顔が戻る日が来るように、これからの一年はたくさん素敵な事があ  
(川津)